

平成 31 年度 一般入学試験（第 I 期）試験問題

国 語

注意事項

1. 解答用紙にはマーク用と記述用があります。解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、監督者の指示に従って、それぞれ正しく記入し、マークしなさい。
 - ①氏名欄
氏名・フリガナを記入しなさい。
 - ②空欄
解答用紙（マーク用）「年月日欄」の右横の空欄に「国語」と記入しなさい。
 - ③番号欄
受験番号を左詰めで記入し、さらに解答用紙（マーク用）には番号欄の下のマーク欄にマークしなさい。
2. この冊子は、問題が 19 ページあります（空白ページ 1 ページを含む）。
3. 試験中に印刷の不鮮明、落丁・乱丁あるいは解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に申し出なさい。
4. 受験番号が正しくマークされていない場合、採点できないことがある。
5. 解答は、解答用紙の解答欄にマークしなさい。たとえば、

10

と表示のある問いに対して 3 と解答する場合は、(例) のようにマークしなさい。記述式問題は記述用解答用紙に記入しなさい。

(例)

解答番号	解答記入欄
10	① ② ● ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

6. 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離してはいけません。
7. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。

一 次の問に答えなさい。

問一 次の言葉の類義語を、それぞれ1から4の中から選びなさい。解答番号は①は 、②は 、③は 、④は

- | | | | | | | | | |
|------|---|----|---|----|---|----|---|----|
| ① 異存 | 1 | 異議 | 2 | 異心 | 3 | 異口 | 4 | 異域 |
| ② 寛容 | 1 | 狭量 | 2 | 厳格 | 3 | 寛大 | 4 | 従容 |
| ③ 機知 | 1 | 機転 | 2 | 承知 | 3 | 転機 | 4 | 要領 |
| ④ 推量 | 1 | 確認 | 2 | 憶測 | 3 | 酌量 | 4 | 論証 |

問二 次の言葉の対義語を、それぞれ1から4の中から選びなさい。解答番号は①は 、②は 、③は 、④は

- | | | | | | | | | |
|------|---|----|---|----|---|----|---|----|
| ① 帰納 | 1 | 導出 | 2 | 出発 | 3 | 抽出 | 4 | 演繹 |
| ② 結果 | 1 | 発生 | 2 | 起点 | 3 | 相関 | 4 | 原因 |
| ③ 空虚 | 1 | 喪失 | 2 | 充実 | 3 | 満足 | 4 | 真実 |
| ④ 秩序 | 1 | 命令 | 2 | 混乱 | 3 | 不同 | 4 | 雑多 |

問三 次の語の空欄に、それぞれ1から4の中から漢字を選んで補い、四字熟語を完成させなさい。解答番号は、①は 、②は 、③は 、④は

- ① 一会 1 語 2 後 3 御 4 期
- ② 捲 重来 1 土 2 度 3 怒 4 努
- ③ 真爛漫 1 貂 2 天 3 展 4 転
- ④ 森羅万 1 生 2 象 3 相 4 照

問四 次の語の空欄に、それぞれ1から4の中から語を選んで補い、慣用句を完成させなさい。解答番号は、①は 、

- ②は 、
- ③は 、
- ④は

- ① 相槌を 1 叩く 2 入れる 3 打つ 4 刺す
- ② とりつく がない 1 暇 2 隙 3 島 4 術
- ③ 二の足を 1 演ずる 2 つげない 3 踏む 4 舞う
- ④ 煮え湯を 1 盗られる 2 入れる 3 冷ます 4 飲まされる

問五 次の故事成語の意味を、それぞれ1から4の中から選びなさい。解答番号は、①は 、②は 、③

- は 、
- ④は

- ① 木によりて魚を求む
 - 1 木に登って魚を捕まえようとしても、方法が間違っているので目的が達成できない。
 - 2 木陰に姿を隠し魚を釣るように、物事には細心の注意を払う。
 - 3 竹の竿があるにもかかわらず、木の竿で魚を釣ろうとすることは、効率が悪い。
 - 4 必要なものがあるときは、より高い場所に登って探すのがよい。

② 烏合の衆

- 1 カラスの集団はまとまりに欠けることから、規律のない集団のこと。
- 2 カラスは鳥の中でも頭が良いことから、規律のとれた集団のこと。
- 3 小さなカラスでも、集団となると脅威になり得ること。
- 4 カラスは群れを作らないため、珍しい光景のこと。

③ 水魚の交わり

- 1 大きな魚の食べ残しに群がる小さな魚のように、一方の成功に他方が便乗する関係のこと。
- 2 敵から身を守るために小魚が群れをなすように、協力し合う関係のこと。
- 3 共生している魚のように、互いに恩恵を与え合うことが出来る関係のこと。
- 4 魚が水から離れられないように、大変親密な関係のこと。

④ 大器晩成

- 1 大きな鐘を後日ゆっくり作成できるように、まずは日々直面している小さな問題にしっかりと向きあうべきであるということ。
- 2 権力を誇示するために大きな鐘を作るような無駄な努力はせずに、身の丈にあった行動をとること。
- 3 初めから大きな鐘を作ると失敗することが多いことから、大事は経験を積んでから取り組む方がよいということ。
- 4 大きな鐘は完成するのに時間が掛かるように、大物は晩年になってから立派になること。

空白ページ

□ 次の文章を読んで、あとの問に答えなさい。

ぼくが板崎喜内人と知り合ったのは、ひとつの新聞記事が直接の契機であった。

二年前のある日、というより狂乱物価という名のもとに、凄まじいインフレーションが^イ昂進^{ショウシン}していた時期のある日、朝日新聞に「相場荒し」というタイトルの記事が五段抜きで出た。

本来この記事のテーマは物価の□^{コウドウ}こうとう^{コウドウ}についての究明であったはずだが、しかし結果的には相場で破格の金を儲けた相場師を一方的に、^ハだんざい^{ダんざい}だんざいするという効果を持ってしまった。「相場の異常な過熱から取引所の立会い停止にまで追込まれた毛糸、毛糸に続いて、こんどは綿糸に火がつき、激しい投機合戦がはじまっているが、そんな大荒れのなかで愛知、三重県の一にぎりの投資家・相場師の動きが注目されている。これらの投資家は名古屋、東京、大阪の取引所に介入、相場の過熱に^ニはくしゃ^{ハくしゃ}をかけたともいわれている。こんども毛糸相場で三十億円をもうけたという一人は『当然値上りするものを買っただけ。□^イにも

うけたものだ』と開き直っているが、これら一部投資家によつてあおられた相場の□^{コウドウ}こうとう^{コウドウ}は消費者にはね返ってくる」
その中でもひとり集中砲火を浴びたのが、毛糸相場で三十億も儲けたのに、□^イだなど、開き直っている板崎喜内人であった。

毛糸ではもうけたといわれているがという記者の問いに、三十億、その他を合わせて五十億ぐらいもうけたと答え、板崎はさらにこういつている。

《この道十八年間、あらゆるものを手がけ苦勞してきたが、上向いたのは四十四年の小豆からだ。大口で買う人は自分の身上をかけて、上がるメドがあつて買う。それが男の道というものだ》

ぼくがこの記事を読んだ時の感想は、¹記者のスケープ・ゴート^{スケープ・ゴート}作りの意図^イにもかかわらず、この社会にまだこのようなことが可能なのか、という激しい驚きであった。

かつて、ロジェ・カイヨワは遊びを四つにパターン化した。そのうちのひとつ「アゴーン^{注1}」への人々の強い愛着を説明して、

アゴンのように一定のルールのもとにハンデもなく闘えるものは実生活においては何もなければいけないからだと知っている。確かに、現実にはアン・フェアでハンデがいく通りにも課せられている。

人ばかりでなく企業だって変わらぬ。小さい会社はバタバタつぶれているのに、大証券会社が傾くと国が手助けする。資本主義においては、企業利潤の正当性はひとつに危険負担の対価という発想で説明される。あらゆる企業はリスクを減らそうとするが、しかしどうしても残るリスクがある。だからこそ、企業家精神というものが称揚され II が認められる。リスク背負わざるもの、儲けるべからず。だが、巨大だというだけの理由でその僅かの危険も取り除かれるとしたら、資本主義における企業家精神の死を意味する。

リスクのない社会は確かに安定した社会である。しかし同時に息苦しい社会でもある。「我々青年を III 囲繞する空気は、今やもう少しも流動しなくなった」(「時代閉塞の現状」)

と書いたのは六十年以上前の IV 石川啄木である。もともと「時代閉塞」でなかった時代が果していつあったのか、というシニカルな反問もなり立つのだが、少なくともリスクのない安定した社会では、「囲繞する空気」が流動しないことだけは確実だ。空気はよどみ、深いニヒリズムが、ガスのようにひろがる。

そのような時代に、 V 徒手空拳から五十億をつくり出す大勝負ができたということは、ひとつの奇跡である。この社会でまだそのようなことが可能なのだ!

《それが男の道なのだ》とは実に味のある言葉だった。この台詞の中には、大衆文学も顔を赤らめるような素裸のロマンがある。少なくともその匂いは嗅ぎとれる。この匂いにアレルギーをおこした「週刊新潮」は「五十億もうけた相場師(37歳)が堂々説く『男の道』と『ライバシー』なる記事を載せた。

しかし、とぼくは思った。「男の道」というのは、このような形で VI 揶揄さるべきものなのだろうか。

それから何日かして、ぼくは桑名に向かった。板崎は桑名に住んでいると聞いたからだ。板崎に会おうと思ったのは相場のメッカである日本橋蛸殻町を歩き、何人かの相場師と会ううちに、相場というものの、板崎という人物に強く魅かれ始めたからだだった。

それは「ルポライター」としての職業的興味以上に、「流動せざる空気」の中にあつて自分は何もしていないのではないかという怯えを持つ「青年」としての個人的意志から発していたかもしれない。

業界きつての理論家として知られる東京穀物取引所の企画室長・森川直司に会うと、彼は板崎をこう評した。

《実は、私も彼のことを注目しているんです。相場師というものは、相場に仕えるもので、動きを「A」「B」としてはならない。かつての相場師はそうではなかった。「スクイズ」だの「玉締め」だのプロレスの場外乱闘みたいにフェアでなかった。ところが板崎さんは、すくなくともいままでは綺麗な勝負をしてきた》

森川には、無数の投機意欲によつて相場が、てきせいになるべきだという、いわばアダム・スミス流の「見えざる手」による自動調節機能への信仰がある。

《相場は神聖であつて、人為によつて動かすなどもつてのほか》

板崎は、その考え通り相場の大勢に逆らわず、読みの的確さで成功してきたというのである。悪どい儲けをした相場荒しという新聞の論調とはかなり違つた板崎像だつた。

《毛糸じゃね、板さんに売り向かつて一億円くらい損しちゃつたよ》

やはり場立ち注2から成功し、若手相場師として登録されつつある小松夏男はそういつて笑い飛ばした。小松は川村商事という仲買店の専務で、川村は板崎の東京での玉注3を扱っている。相場の世界では味方と敵はわからないくらいチ錯綜ヒクソウしている。

《でもね、板さんっていい奴だよ。男だよ》

ぼくが板崎のいう「男の道」という言葉をいくらかでも理解できたのは、実は、ひとりの老相場師と会つてからのことだつたかもしれない。鈴木四郎という、取引所の理事長もかつてし、明治物産の会長である彼と、素人と玄人の差について話していた時だつた。

《私たちはね、相場が真つ赤に燃え上がる寸前にそれが見えるんですよ。そしてね、炎が巨きく天に届きそうに燃えさかるころには、私らは真つ白に燃えつきた灰になつていなければ、駄目なんです》

板崎は、桑名のひとつ先、近鉄の益生という町に住んでいた。益生はのんびりした、ただ陽が照っているだけの町だった。

《どういうわけか、この辺を離れることが、できませんねん》

初めて会った時、板崎はそういつて笑った。笑い顔のいい男だった。長身で浅黒く、髪は短く刈り込んである。痩せすぎているためか精悍せいかんという印象でもない。しかし、喋り始めると関西なまりの強い伊勢弁は歯切れがいい。

《相場には、そら勝ちたかった。何遍も失敗して女房と逃げ回らなならんかった。そんなんもうごめんです。でも三十億、五十億というのは枝葉のことです。自分が使い切れん金をいくら持つとつても同じです。紙切れもいっしょです。相場を張るのは好きやから、それだけですわ》

まさしく、それは ⁵カッコつきではない男の道であるに違いなかった。

(沢木耕太郎『鼠たちの祭』)

注1 アゴーン (agon) ロジェ・カイヨワの『遊びと人間』にてくる言葉。争う者同士に対して、人為的に平等のチャンスが与えられ、勝者の

勝利に明確で疑問の余地のない価値が与えられる競争という形をとる一群の遊び。例…一〇〇m走、チェスなど

注2 場立ち 証券取引所会員の代理として場に出ること。また、その人。

注3 玉(ぎょく) 建玉(たてぎょく)の略。株式の信用取引や商品の先物取引において、売買約定をした株式・商品で未決済のもの。

問一 傍線「イ」「ホ」「ハ」「チ」の意味として最も適当なものを、それぞれ次の1から5の中から選びなさい。解答番号は「イ」

は 、「ホ」は 、「ハ」は 、「チ」は

イ「昂進」
1 たかぶり進むこと。 2 乱高下すること。 3 停滞すること。 4 治まること。 5 世間に浸透すること。

ホ「圍繞」

1 駄目にする。 2 盛り立てること。 3 周りを取り囲んでいること。 4 後押しすること。 5 褒め称えること。

ハ「揶揄」

1 批判すること。 2 認めること。 3 世に広めること。 4 からかうこと。 5 話題になること。

チ「錯綜」

1 忙しいこと。 2 入りまじっていること。 3 暇なこと。 4 単純であること。 5 活気に満ちていること。

問二 傍線「ロ」「ハ」「ニ」「ト」にあてはまる漢字として最も適当なものを、それぞれ次の1から5の中から選びなさい。解

答番号は「ロ」は 、「ハ」は 、「ニ」は 、「ト」は

ロ「こうとう」

1 高踏 2 高等 3 高騰 4 勾当 5 荒唐

ハ「だんざい」

1 弾剂 2 段済 3 団財 4 壇賤 5 断罪

ニ「はくしゃ」

1 迫車 2 伯射 3 拍車 4 泊射 5 箔車

ト「てぎせい」

- 1 適正
- 2 適性
- 3 敵性
- 4 敵勢
- 5 摘正

問三 にあてはまる四字熟語とその意味を、それぞれ次の1から5の中から選びなさい。解答番号は四字熟語

は 、意味は

四字熟語

- 1 公明正大
- 2 不正不公
- 3 猪突猛進
- 4 泰然自若
- 5 牽強付会

意味

- 1 正しくない上に不公平なこと。
- 2 公平で良心に恥じることなく正しいこと。
- 3 むこう見ずに猛然と突き進むこと。
- 4 自分の都合のいいように強引に理屈をこじつけること。
- 5 落ち着いていて物事に動じないさま。

問四 にあてはまる用語として最も適当なものを、次の1から5の中から選びなさい。解答番号は

- 1 起業
- 2 出資
- 3 倒産
- 4 利潤
- 5 リスク

問五 傍線1「記者のスケープ・ゴート作りの意図」とはどういう意味か。最も適当なものを、次の1から5の中から選びなさい。

解答番号は

- 1 毛糸相場において三十億も儲けるカラクリを分かり難くし、相場が上がったことの影響を消費者に負担させようとする事。
- 2 板崎を悪者に仕立て上げること、毛糸相場で三十億も儲けることができることを隠そうとすること。
- 3 板崎に対し、アン・フェアーでハンデがいく通りにも課せられた記事を書くこと。
- 4 毛糸相場で儲けた一にぎりの投資家・相場師の名前を伏せ、板崎一人に世間の目を向けさせること。
- 5 物価上昇の原因を毛糸相場で儲けた板崎一人に押しつけること。

問六 傍線2「石川啄木」の作品として最も適当なものを、次の1から5の中から選びなさい。解答番号は

- 1 吾輩は猫である
- 2 銀河鉄道の夜
- 3 道程
- 4 一握の砂
- 5 杏っ子

問七 傍線3「徒手空拳」の意味を、次の1から5の中から選びなさい。解答番号は

- 1 何も持たないこと。
- 2 口先だけで人をだますこと。
- 3 平和で安定していること。
- 4 かげひなたの無いこと。
- 5 武士道精神で困難に打ち勝つこと。

問八 傍線4「私も彼のことを注目しているんです。」のように、森川が板崎に注目するのはなぜか。最も適当なものを、次の1

から5の中から選びなさい。解答番号は

- 1 板崎には、無数の投機意欲によって相場は均衡するべきだという信仰があったから。

- 2 毛糸相場で1億円くらい損をした小松が、「いい奴」と言うくらい綺麗な勝負をするから。
- 3 「流動せざる空気」の中にあつて、五十億をつくり出したから。
- 4 悪い儲けをした相場荒しという新聞の論調に興味があつたから。
- 5 森川には、アダム・スミス流の「見えざる手」による自動調整機能への信仰があつたから。

問九

□ A と □ B にあてはまる用語の組み合わせとして最も適当なものを、次の1から5の中から選びなさい。解

答番号は □ 36 □

- 1 A 「作り出す」 B 「読もう」
- 2 A 「支配する」 B 「騙そう」
- 3 A 「読む」 B 「作り出そう」
- 4 A 「読む」 B 「儲けよう」
- 5 A 「調整する」 B 「騙そう」

問十 傍線5「カッコつきではない男の道」とはどういう意味か。作者が考えるカッコつきではない男の道の内容として最も適当

なものを、次の1から5の中から選びなさい。解答番号は □ 37 □

- 1 使い切れないお金は持たないこと。
- 2 何遍失敗しても相場に勝ちたいという思いを忘れないこと。
- 3 上がるメドがあるものだけを、相場が真っ赤に燃え上がる寸前に買うという姿勢を貫くこと。
- 4 お金のためではなく、好きなことに身上を掛けること。
- 5 アゴーンへの強い愛着から、企業家精神を貫くこと。

三 次の文章を読んで、あとの問に答えなさい。

私が土橋の映画を作ろうと思ったのは、『おじいちゃん、おばあちゃん、ごめんなさい』と、¹あやまりたかったからです。私が生まれた昭和三八（一九六三）年ころの土橋は、まったくの農村でした。現在の土橋全体の世帯数は七〇〇〇世帯近いと言いますが、当時はたった五〇戸ほどの農家があっただけでした。

昭和四七年以降、小学校の三年生になったころからマンションや、^い建売の家が増えてきて、小学生の数も増え、宮崎小学校に入学した私は、家の近くに新たに開校した富士見台小学校に移るようになりました。富士見台小学校のクラスメートは、これまでのお友達とは全く違っていました。言葉づかいも、着ている洋服も、お弁当の中身も、そして住んでいるおうちも……。

私の家は、^ろ茅ぶき屋根のおうちで、土橋で採れる土と草と木、そして竹でできていました。茅ぶき屋根のおうちの周りには牛を飼った牛小屋があり、その向うに畑や竹やぶがあって、私のおじいちゃんはいつも畑で仕事をしていました。

ある日、同じクラスの男の子が『俺んちから学校に行く間に、ボロい家があつてさ、その前を通ると臭いんだ』と言ったのです。私は、すぐにそれが自分の家のことだとわかりました。それ以来友達に家を知られないように、学校から帰るときに自分の家よりも遙か手前の道で曲がり、大きく回り道をして帰ったのを覚えています。

I、こんなこともありました。私のおばあちゃんはお、^アさいほうが上手で、着物やお布団も手で縫って作ってくれました。ある日、古い布を接ぎ合わせて学校で使う座布団を作ってくれましたが、結局私はその座布団を使うことはありませんでした。クラスメートのみんなの座布団はピンクや水色のおしゃれなデザインでしたが、私のおばあちゃんの作った座布団はくすんだ茶色や小豆色の、^は端切れを接ぎ寄せたもので、みすばらしく、^に田舎くさいものに見えました。とうとうカバンから座布団を出すことができなかつたのです。

私は自分の家がお百姓の家だというのが恥ずかしくて仕方ありませんでした。どこから見ても百姓にしか見えないおじいちゃんの存在も恥ずかしいと思いました。

宮崎小学校に通っていたころは勉強をしなくても成績が良かったのに、富士見台小学校に来てからは後ろから数えた方が早くなってしまいました。みんなは塾に通っていたのに、私の親は塾のことも知りませんでした。自分の成績が悪いのは農家だからだと思いきなりました。

お友達と一緒にいるときにおじいちゃんが私に声をかけてくると、他人のフリをしてその場から逃げてしまったりしました。私は新しく土橋にやって来たお友達に、おじいちゃん、おばあちゃんのことや、茅ぶき屋根の家のこと、そして農村だった土橋のことも、誇りを持って話をするのができませんでした。

Ⅱ 心の中では朝早くから黙々と仕事を続けてきたおじいちゃん、おばあちゃんのこと、ツバメやカブトムシやホタルなどがいつも遊びにきていた茅ぶき屋根の家のこと、ドジョウやザリガニを採って遊んだ土橋のことも大好きでした。それなのに自分が嫌われないようにと他人の目ばかりを気にしているうちに、大切なおじいちゃんも、茅ぶき屋根の家も、土橋の風景も皆消えていってしまったのです。

それから大人になって日本の各地や外国に行ったときに、若い人たちが自分の地域に伝わる芸能や行事をととても大切にしてい、誇りをもって伝えている姿を見て、自然と涙があふれてきました。私は自分の生まれた地域にも同じように芸能があり、行事があり、暮らしがあつたと思えました。それまで、きょうれつに恥ずかしいと思っていたものがとてつもなく大切で、本当はきちんと自分自身が自分の言葉で伝えるべきことだったと気づいたのです。

Ⅲ 私は、まず土橋の行事や芸能を片っ端からビデオに、おさめることを心に決めました。実は、それまでビデオを回したことなく一度もありませんでしたが、どうしても土橋の独特の方言や響き、そしてお百姓をしてきた人にしか出せない雰囲気や味わい、身のこなしを残しておきたいと思つたのです。そうして会社に、つとめながら五年かけて、一人で撮りためたビデオは約百本になりました。たった一人で始めたことですが、途中からこの作業を大切なものだと思つてくれる仲間が現れました。幸い、映画をつくるプロの人が仕事の合間に関わって、甲 ようになったのです。

自分が大切だと感じたことを自分のやり方で表現してみるこの大事さ、それが伝わったときの嬉しさを味わいました。

最初から数えて七年間、ひたすら記録を続けてわかったことは、『お百姓』の家に生まれながら、『お百姓』の暮らしをきちんと理解できていなかったということでした。私はお百姓とは田んぼや畑でお米や野菜を作る人だと考えていたのです。Ⅳ、お百姓とは勉強のできない人や就職できない人になる、誰にでもできる仕事だと思っていました。ところがお百姓とは、とてもスゴイ人たちだったのです。何がスゴイかというと、今は道路や家を作るのは専門の業者さんに頼みますが、かつてのお百姓さんはその土地にある木や草や土や石を使って、自分たちの暮らしに必要なものを自分たちの手で作ってきたのです。そして自分たちの食べるものも自分たちで育ててきました。私のおじいちゃんもそういう立派なお百姓でした。

結婚式やお葬式など、今はホテルやホールで行うことも全て自分の家で行ってきました。お百姓の家は家族が住むだけでなく村の集会場であり、多目的ホールでもあったのです。

私が小学校三年生になるころまで、土橋には小さな小さな雑貨屋さんが一軒あっただけでした。お金がなくても、お店や病院がなくても土橋に住むお百姓さんたちは、みんなで力をあわせて助け合って村を守ってきました。その人と人とを結ぶ土台となっていたのが『講』だと思います。『オイヌさまのお札』をいただきに御岳山に詣でる御嶽講も、その講の一つです。

私はこれまで仕事とは **A** ものだと思っていました。世の中にある仕事のどれかを **B**、就職しなければならぬものだと思ってきました。しかしお百姓の暮らしを知らなければ、自分の目の前にあるものから自分で仕事を **C** ことの大切さを思いました。

今の時代、そう簡単に自分で仕事を作るというわけにはいきません。私もこれまでいろいろな会社で仕事をしてきました。他の仕事をしていても、『私は土橋という《自分の足元》を大切にしたい』と強く思い続けていました。そして、そのことを『大切だね』と言ってくれる人々に会いたいと思ったのです。けれども世の中にそんな仕事はありませんでした。

今はその手段として映画を使っています。映画を通じて人と **α** し、つながり合うことが目的です。いいことばかりではなくもちろん厳しいこともあるでしょう。でもこうして自分の中で大切に思い続けてきたことを形にしてから、『これは大切だね』と言って応援して **甲** 人が増えてきました。

今日こうして皆さんの前でお話をしているのも、土橋小学校の先生方が『小倉さん、大切なことをしていますね』と思っ
て **甲** からなのです。土橋小学校はそうやって自分の中の大切なものをきちんと見つめる人を応援して ^乙 くれる学校だと思
います。

世の中には大切で必要であるにもかかわらず、まだ仕事になっていないことがたくさんあります。自分の中に『好きで好きでたま
らないこと』、『ずっと気になっている大切なこと』がある人は、自分で『仕事』を作っていくきっかけになるかもしれません。ある
いは『自分は人と違ってちょっと恥ずかしい』とコンプレックスに思うことがある人は、自分でなければできないことを掘りあてる
近道を手に入れていくかもしれません。

私はここにいるみんなが同じ地域に暮らしている仲間だと思っています。ですから何でも気軽に相談に来てほしいと思っています
す。そして土橋のこと、それからお父さんお母さんや、おじいちゃんおばあちゃんの生まれた地域のことを、もっともっと知ってほ
しいと思っています。

それが違う言葉や暮らし方を持つ人々と出会い、深く付き合っていく上で役立つものになると思います。

(小倉美恵子『オオカミの護符』)

- 問一 傍線「い」、「ろ」、「は」、「に」の読みとして最も適当なものを、それぞれ次の1から5の中から選びなさい。解答番号は「い」
は **38**、「ろ」は **39**、「は」は **40**、「に」は **41**
- | | | | | | | | | | | |
|----------|---|--------|---|--------|---|--------|---|--------|---|--------|
| い「建売」 | 1 | けんばい | 2 | こんばい | 3 | たてうり | 4 | けんうり | 5 | こんうり |
| ろ「茅」(ふき) | 1 | あし(ふき) | 2 | ち(ふき) | 3 | かや(ふき) | 4 | わら(ふき) | 5 | ほこ(ふき) |
| は「端切」(れ) | 1 | たんぎ(れ) | 2 | はしぎ(れ) | 3 | はぎ(れ) | 4 | はんぎ(れ) | 5 | はたぎ(れ) |
| に「田舎」 | 1 | でんしゃ | 2 | たしや | 3 | いなか | 4 | でんおく | 5 | たおく |

問二 傍線「ア」、「イ」、「ウ」、「エ」にあてはまる漢字として最も適當なものを、それぞれ次の1から5の中から選びなさい。解

答番号は「ア」は 、「イ」は 、「ウ」は 、「エ」は

ア「さいほう」

1 載峰 2 裁法 3 裁縫 4 裁法 5 裁縫

イ「きょうれつ」

1 強列 2 強劣 3 強裂 4 強烈 5 強洩

ウ「おさ」(める)

1 理(める) 2 修(める) 3 収(める) 4 治(める) 5 納(める)

エ「つと」(め)

1 努(め) 2 勤(め) 3 勉(め) 4 務(め) 5 功(め)

問三 、、、にあてはまる用語の組み合わせを、次の1から5の中から選びなさい。

解答番号は

1 I || また II || でも III || そこで IV || しかも

2 I || さらに II || しかし III || さて IV || つまり

3 I || そこで II || やはり III || そのかわり IV || なかでも

4 I || やはり II || そのかわり III || つまり IV || そして

5 I || 実は II || それにもかかわらず III || たとえば IV || いわば

問四 、、にあてはまる語句として最も適當なものを、次の1から5の中から選びなさい。解

答番号は 47

- 1 A ≡「与えられる」・B ≡「選ばなければならない」・C ≡「作り出してゆく」
- 2 A ≡「与えられる」・B ≡「作り出してゆく」・C ≡「選ばなければならない」
- 3 A ≡「選ばなければならない」・B ≡「作り出してゆく」・C ≡「与えられる」
- 4 A ≡「作り出してゆく」・B ≡「与えられる」・C ≡「選ばなければならない」
- 5 A ≡「作り出してゆく」・B ≡「選ばなければならない」・C ≡「与えられる」

問五 甲 にあてはまる傍線乙の尊敬語として最も適当なものを、次の1から5の中から選びなさい。 解答番号

は 48

- 1 いただく
- 2 下さる
- 3 さしあげる
- 4 おられる
- 5 賜る

問六 α にあてはまる用語として最も適当なものを、次の1から5の中から選びなさい。 解答番号は 49

- 1 対置
- 2 共存
- 3 共感
- 4 対立
- 5 連携

問七 傍線1「あやまりたかった」のはなぜか。作者がおじいちゃん、おばあちゃんにあやまりたかった理由として、最も適当で

はないものを次の1から5の中から選びなさい。 解答番号は 50

- 1 おじいちゃんが声をかけてくると、他人のふりをしてその場から逃げてしまったから。
- 2 おばあちゃんが作ってくれた座布団がみすぼらしく田舎くさいものに見え、結局使わなかったから。
- 3 自分の成績が悪いのは、家が農家のためお金がなく塾に通えないからだと思い込んでしまったから。
- 4 自分が嫌われないようにと他人の目ばかりを気にしていたから。
- 5 お百姓の家に生まれながら、お百姓のことをきちんと理解できていなかったから。

問八 傍線2「自然と涙があふれてきました」のはなぜか。その理由として最も適当なものを、次の1から5の中から選びなさい。

解答番号は 51

- 1 日本各地や外国の芸能や行事の素晴らしさに感動したから。
- 2 若い人が自分を厳しく叱っているように感じたから。
- 3 土橋の芸能や行事や暮らしを、本当はきちんと自分自身が自分の言葉で伝えるべきことだったと気づいたから。
- 4 自分の生まれた地域に、同じように芸能や行事があることを知らなかったから。
- 5 大好きな土橋の行事や芸能を片っ端からビデオにおさめていなかったから。

問九 作者は、富士見台小学校へ移った当時、言葉づかいも、着ている洋服も、お弁当の中身も、そして住んでいるおうちもまったく違うクラスメートに対しどのように向きあうべきだったと考えているか。文中に出てくる言葉を用いて、40字以内で説明しなさい。解答は記述用解答用紙へ。

(設問以上)

